



# 平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 1月号

「春には薔薇の花を咲かせる」

牧師・園長 長村亮介

## 「The Rose」

愛は河だという人がいる  
若くて柔らかな芽をのみ込んでしまう河だと  
愛は鋭い刃物だという人がいる  
魂から血を奪い去る刃物だと  
愛は飢えだという人がいる  
満たされることのない渴望だと

わたしは愛は花だと思ふ  
そして、その大切な種があなたなのだ

傷つくことを恐れている心  
そんな心では楽しく踊ることができない  
目覚めることを恐れている夢  
そんな夢ではチャンスをつかめない  
誰も受け入れられない人  
それでは与える喜びを知ることはない  
そして、死ぬことを恐れている魂  
それでは生きることの意味を学べない

夜がせつなく寂しくなったとき  
そして、道があまりにも長すぎると感じたとき  
また、愛は幸運で強い人間にしか  
やってこないと思つたとき  
思い出してほしい、厳しい冬の  
深い雪の下には  
暖かい太陽の愛を浴びるための種があり  
春には薔薇の花を咲かせるということを・・・

(作) Amanda McBroom 訳 Leona

一九七九年十一月に公開されたアメリカ映画『ローズ』の主題歌です。主演のベッド・ミッドラーが歌ってヒットしました。この映画は、ベトナム戦時中、酒と麻薬に溺れながらも歌いつづけた女性ロック・シンガー「ローズ」を、ジャニス・ジョップリンをモデルに描いています。制作当初この歌は、讚美歌みたいでロックではないと却下されましたが、音楽担当のプロデューサーが強く推し、ベッド・ミッドラーが気に入って、主題歌に採用されたのだそうです。

どんな人生でも言えることではないかと思いますが、渦中にある時は「どこまで続くかみぞ」と思うのが常ですが、終わってしまうと、「瞬間の間であった」と感じるもので、その時になって初めて、生きるということがとても愛おしく感じられるものなのだろうと思います。そして、恐らくその「愛おしさ」は、人生に苦悩すればするだけ豊かなものになるのではないでしょう。か。「命」というのは、はかないものですが、一生懸命に生きる「命」には、必ず暖かな春が訪れて、美しい花を咲かせる時が来るのです。

しかしそれにしても、この詩が教えてくれる「暖かい太陽の愛を浴びるための種」に気が付くには、とても時間が必要で、なかなか難しいことに思います。ただ、このことについて一つ言えるのは、愛はいつも逆説的だということです。なぜなら、求めれば失われ、奪われ、傷つけられるものでありながら、反対に与えれば、与えるほどに豊かに満たされるものだからです。イエスさまは、このことを度々に教えておられます。

「持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。」  
(マタイ 十三・十二)

「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、掃すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである。」  
(ルカ 六・三八)

私たちが真実に愛してくださるイエスさまは、私たちの心にある種を、暖かな愛の光で照らし出し、「ここにあるよ。」と、いつも教えていてくださるのです。Ω

# 平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園  
2019年 1月号